

必由館高等学校改革に係る学校提案について

1 7月定例教育委員会会議(7月29日)報告後の経過

令和3年 7月29日 教育委員会会議にて教職員案及び生徒意見報告

- // 9月上旬 校長から生徒、同窓会へ今後の対応について周知
- // 9月21日 教育委員と生徒代表、教職員、同窓会代表との意見交換(オンライン)
- // 10月4日 教職員案に対する生徒アンケート実施(生徒会による実施)
- // 10月5日 保護者への意見聴取
- // 10月15日 校内検討会議(生徒代表、教職員、同窓会代表)
- // 10月20日 校長と生徒代表との意見交換
- // 10月26日 校内検討会議(学校案(素案)とりまとめ)
生徒、同窓会による学校案(素案)確認
- // 11月12日 校長と生徒代表との協議
- // 11月19日 学校案決定(校長より全校生徒、保護者及び同窓会への周知)

2 生徒アンケート結果を踏まえた生徒会の意見

基本的に現在のままの必由館高校が良い。

変えるのであれば、以下のとおり希望。

- ①「総合探究科」ではなく、「普通科」
- ②「総合探究コース」ではなく、「普通探究コース」
- ③ 服飾デザインコースを1クラス単独で存続設置
- ④ 中学校を設置するのであれば別の場所に新設
- ⑤ 35人学級ではなく、36人学級に
- ⑥ 校則についても学科改編と同時に考えてほしい(生徒の主体的参画として)

3 保護者意見(概要)

【学科改編について】

- ・3年間を通じて様々な経験を重ね、考える力や判断力等が身に付く学校であってほしい。
- ・普通科は廃止しないでほしい。
- ・普通科でも、進学や就職など、後々進路希望が変わった際に対応できるような学校がよい。

【中学校設置について】

- ・設備や部活動など、検討する要素が多すぎるので、急いで中高一貫にすべきでない。
- ・中高一貫はよいと思うが、特色だけの学校には興味はなくなると思う。

【その他】

- ・あくまで子供たちが学べる最良の学校にしてほしい。
- ・限られた予算の中で、必由館でなければできないような特色ある教育を目指すことで、市立高校として存続していく価値があるのではないかと思う

4 必由館高等学校提案(次頁)

第1章 市立高等学校・専門学校改革基本計画の策定について→原案どおり

1. 改革の趣旨

- ・高等学校においては最後の学科改編から約 20 年、専門学校については最後の校名変更から約 30 年が経過し、現在の社会及び市民のニーズに応じた新たな時代を見据えた教育内容の見直しが求められている。

2. 計画の位置づけ

- ・「市立高等学校・専門学校改革基本計画」は、「熊本市第 7 次総合計画」（令和元年度中間見直し）及び「熊本市教育大綱（熊本市教育振興基本計画）」（令和 2 年度改訂）の理念を踏まえて策定するもの。

第2章 市立高等学校・専門学校の現状と課題について

1. 必由館高等学校

- ・現状：明治 44 年（1911 年）開校、平成 13 年（2001 年）に校名変更学科改編を行い普通科普通、普通科国際コース、普通科芸術コース、普通科服飾デザインコースを設置し、特色ある教育活動を実施
部活動は文武両面で活躍
地元の私立大学を中心に約 9 割の生徒が進学
普通科普通の出願倍率については高水準で推移
- ・課題：学習意欲や学力に生徒間の差が見られ、主体的に学ぶ意欲や態度の育成が必要

第3章 市立高等学校・専門学校の改革方針

1 改革の基本理念

- ・自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校へ改革する。

2 三つの特色

(1) 「市立ならではの」特色ある学校

①学科・設置形態	・幅広い進路選択に対応する「普通科」としつつ、 探究的な学びを充実した教育課程を編成し、大学や企業、地方自治体との連携等 、特色ある学びを実現する。 ・中高一貫教育の実施については 引き続き検討
②少人数クラス編制	・高校は、きめ細かな指導・支援を実施するため、 36 人 学級編制を実施 ・少子化の進展等に応じて段階的に募集定員を減じることに継続的に検討
③学校間連携	・市立高校 2 校の連携強化方策の検討
④市が所管する地域資源等の活用	・市役所や熊本城等、市の所管する施設・機関と連携した探究学習等 ・市の創業支援関連事業と連携した起業家教育の実施
⑤多様な生徒受け入れ	・多様な個性や才能を持つ生徒や意欲ある生徒を受け入れる選抜方法へ変更 ・個別学習教材の導入や民間教育資源との提携等による個に応じた学びの実現 ・校内での支援体制強化（障がいを持つ生徒等への指導・支援の拡充、オンライン教育の推進、外国にルーツを持つ生徒への支援、LGBTQ 等の性的マイノリティの生徒への支援など）
⑥特別活動の充実	・生徒会組織や活動内容を再構成し、生徒による自治を推進 ・既存の部活動の振興
⑦外部人材の登用	・教育関係者で功績のある外部人材をアドバイザー等として登用

(2) 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校→原案どおり

①市・企業・大学等と連携した課題解決型学習	・市役所や市の施設におけるフィールドワーク ・ベンチャー企業の経営者等を講師招聘した講話 ・大学や地域の企業との連携による課題解決学習
②SDGs を中心に据えた探究的学習	・まちづくりや環境、福祉などの諸問題について、課題解決策等の探究的学習 ・熊本地震からの復興や防災・減災をテーマとした地域課題に関する探究的学習
③個別の興味関心に応じた探究課題の設定	・生徒が希望する進路に関する探究や大学、企業等の調査 ・生徒の興味や関心に応じた「自分事」となる課題追究的な学習

(3) 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校→原案どおり

①生徒主体の探究的な学びの実現	・探究的な学びの授業づくりに生徒が参画する機会を設ける ・市役所や企業・地域団体・大学等との連携構築段階から生徒が参画
②学校運営への生徒の参画	・校則の策定や見直しに生徒が参画する ・生徒が職員と協議、提案する機会を設ける
③生徒の主体性を尊重する 教員の専門性向上	・生徒の考える力を引き出すような授業への改善 ・生徒をファシリテートできる資質・能力の育成

第4章 各校における改革方針

1 新たな必由館高等学校への改革

教育理念 文武両道の校風のもと、多様な個性を尊重しながら主体的に生きる力を育成する

課程・学科・概要

〈現行〉定員 360 名

〈改革案〉募集定員 324 名 (36名×9 クラス)

普通科	普通 6クラス (240名)	普通科※	普通探究コース (仮称) 7クラス (252名) 2年次：進路希望に応じた基礎科目選択 3年次：進路の希望や興味関心等に応じてクラス (類型) 分け 【例：国際探究、人文探究、サイエンス探究、文理総合 等】
	国際コース 1クラス (40名)		芸術探究コース (仮称) 1クラス (36名) (音楽、美術、書道の3系)
	芸術コース 1クラス (40名)		生活探究コース (仮称) 1クラス (36名) (衣生活を中心に、生活をデザインするコース)
	服飾デザインコース 1クラス (40名)		

※普通科：名称を普通科としつつ、大学や企業、自治体と連携した探究的な学びを充実するもの

併設中学校の新設検討について

・検討委員会答申 (R2.3月) では「設置するかどうかも含め、小中学生をはじめとする市民のニーズを詳細に分析し、適切に判断されるようお願いする」

目的・方法	・市民の意見・ニーズを改めて調査し、教育委員会の検討材料とする ・コロナ禍による影響、市の財政状況等を踏まえ、改めて設置の必要性について慎重に検討する
設置により想定される影響	・併設中学校の入学志願倍率が高い場合でも、高校段階からの入学希望者が減少する可能性 ・施設設備に伴う予算措置 (技術室、音楽室、普通教室、多目的室等) が必要
必要な調査	・高校の教育内容の特色が明らかになった後に改めて設置の必要性等を調査 ・施設設備のコスト試算を提示した上で市民のニーズを調査

募集人数や学科・コースの定期的な見直しについて

・変化の激しい社会にあって、市民のニーズや高校卒業後の進路状況等を踏まえ、今回の改編の効果を定期的に検証し、募集定員や学科・コースの在り方についても必要に応じて見直す仕組みを構築する。

第5章 スケジュール (予定・最短)

内容	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7～
学科・コース検討	概要・詳細検討			開校予定 (最短)	
教育課程検討		開設科目等検討	シラバス作成・公表		
選 抜 検 討	選抜方法等調査 研究	選抜問題作検討	選抜問題作成 選抜実施		
生 徒 募 集		中学校等への説明 説明会実施			
中高一貫教育検討		コスト試算等	ニーズ調査・分析 検討		

5 当初案(教育委員会事務局案)と学校提案の比較

項目	現行	教育委員会事務局案 (令和3年6月報告)	学校提案 (令和3年12月報告)
改革の 基本理念	—	自ら考え、主体的に行動し、多様な人々と協働しながら、自らの人生とよりよい社会を創造する力を育てる学校へと改革する	
三つの 特色	—	I 「市立ならではの」特色ある学校 II 探究的な学びを推進し、社会と積極的にかかわっていく学校 III 生徒が主体的に学校づくりに参画する学校	
教育理念	校訓(至誠、進取、和敬)に 学び、魅力と特色ある学校を めざす	世界的視野と課題解決能力 を有するグローバル・リーダ ーを育成する	文武両道の校風のもと、多様 な個性を尊重しながら主体的 に生きる力を育成する
募集定員	360名	210名	324名
学科 コース <small>※数は1学年 あたり、名称 は全て仮称</small>	○ <u>普通科 9クラス</u> ・普通 6クラス ・国際コース 1クラス ・芸術コース 1クラス ・服飾デザインコース 1クラス	○ <u>グローバル探究科 5クラス</u> ○ <u>芸術探究科 2クラス</u>	○ <u>普通科 9クラス</u> ・普通探究 7クラス ・芸術探究 1クラス ・生活探究 1クラス
少人数 クラス編制	40人学級	30人学級	36人学級 ※段階的に募集定員を減じ ることについて継続的に検討
附属 中学校	—	探究的な学びとグローバル教 育を推進するため、中高一貫 した系統的な教育を実施	市民の意見・ニーズを改めて 調査し、教育委員会の検討材 料とする
計画策定 時期	—	令和3年6月	令和4年6月
開校時期	—	令和5年4月	令和6年4月(最短) ※附属中学校は継続検討
その他	—	—	変化の激しい社会にあって、 市民のニーズや高校卒業後 の進路状況等を踏まえ、今回 の改編の効果を定期的に検 討し、募集定員や学科・コース の在り方についても必要に応 じて見直す仕組みを構築する

6 今後の予定

令和3年12月17日	・教育委員と生徒、教職員、同窓会代表者との意見交換
23日	・定例教育委員会会議自由討議（「必由館高校改革について」）
令和4年 2月	・定例教育委員会会議報告（基本計画素案）
3月	・第1回定例会教育市民委員会所管事務報告（基本計画素案） ・パブリックコメント実施
5月	・定例教育委員会会議報告（パブリックコメント結果報告及び基本計画案）
6月	・第2回定例会教育市民委員会所管事務報告（パブリックコメント結果及び基本計画案報告） ・定例教育委員会会議議決（基本計画策定）